

地域医療応援 景観も美しく 宮城病院・有志が草刈り



地域の病院の環境整備にボランティアで取り組もうと、宮城県山元町の町民有志約60人が、同町高瀬にある国立病院機構宮城病院の敷地の草刈りに汗を流した。医師確保をきっかけに結成された「宮城病院をより良くする住民の会」が主催し、病院応援団としての意気を示した。

参加者は早朝から草刈り機やかまを持参し、敷地に生い茂った草を刈ったり、樹木の枝打ちをしたりした。約一時間半の作業が終わると、すっきりと見通しのよい光景が広がった。

病院の敷地内で草刈りに励む住民の会のメンバー

同会は昨年5月、内科の常勤医3人が退職し、内科が休診となる事態に危機感を抱いた住民らで結成された。関係機関への働き掛けや署名運動を進め、国立病院機構仙台医療センターからの医師派遣により内科が存続される原動力となった。

草刈りボランティアは、住民の会が病院に申し出て始まり、昨年9月に続いて2回目。佐藤武雄会長(80)は「要望するだけでなく、住民ができるお手伝いをしたい。(草刈りが行き届いた)環境のいい病院なら、医師の増員もあるかもしれない」と期待をのぞかせる。

病院は昨年秋以降、住民の会との意見交換の場を設けている。木村格院長は「患者の視点からの意見がいただけるし、病院の実情を地域に伝えることができる。ほかではない病院の応援団に感謝している」と話す。

2006年07月04日 火曜日